

光市医師会報

No. 167

I am a Doctor



Physician

昭和61年 9月発行
光市医師会

医師会月間行事

○ S 61年 8 月度理事会

8月12日於医師会館

- 1、地域医療計画担当理事協議会の報告
- 2、救急の日のポスターについて
- 3、健康診査（一般・精密）の時期、方法
- 4、来年度の心臓検診（A方式）について
- 5、光市国保との話し合いについて
以上（福本副会長）
- 6、福祉関係：懇親会の件（藤原理事）

○ S 61年 8 月度例会

8月26日 於武田薬品K.K室積荘

- 1、周南医学会実行委員会名簿発表
（竹中会長）
- 2、老人保険による健康診査について
- 3、地域医療計画のアンケートについて
- 4、救急の日の医師会配布パンフレットについて 以上（福本理事）
- 5、社保支払い基金における資格関係過誤について
- 6、銀行休日増加に伴う診療報酬支払い日の変更について以上（中村琢理事）
例会終了後 懇親会 7：30～9：00
- 7、（写真撮影）

○納涼懇親会

8月26日 於武田薬品K.K室積荘

平岡先生のお世話により、新築になった室積荘にて、例会終了後、まず全員の写真撮影、竹中会長よりあいさつ、次いで田尻先生の乾杯の音頭にて開宴。会員相互充分に親睦を計り、和気あいあいのうちに、大野先生の万才三唱にて閉会となる。

○第92回周南医学会準備委員会

7月29日 於医師会館

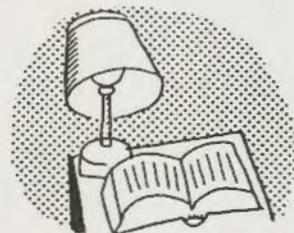
8月12日 於医師会館

○光医師会史編纂委員会

8月19日 於医師会館

○医師会主催野球観戦

8月3日 於広島市民球場



“うちかたの先生”



—板垣院長先生の巻—

光市立病院院長、板垣省三氏、年令50才少々で中肉中背。頭髪は黒毛より白毛を数える方が、数えごたえするほどになっています。最近特に感じさせられますが、きつとたまたま箱でもあけられたのでしょうか。

ハッと思った時にはすでに……

しかし、頭髪は白くとも気はとても若くハツラツとされています。それもそのはず、美人の勢ぞろいの病院ですもの。よりどりみどり。

このような何不自由ない院長先生も、虹ヶ浜の寄宿舎に帰れば一人寂しく自炊され、暇をみつけては草ひきもされるとか？多忙の為か、趣味の登山もとだえがちのよう…ネクタイの色が落ちつき過ぎて……

もう少し鮮明なものをお進めしたいと思えます。しかし頭の下がる事があります。靴には、毎日磨きがかかっており、スポンは折り目がばっちりとなっています。男一人住まいにしては80点くらいかな……

さてここで話しを変え、診察中のあれこれを。看護婦さんにもファンが多いように、患者さんにもファンが多く、若年者から老人まで、幅広くおられます。その秘訣のひとつに、院長先生の聴診器と手の温かみで

す。胸に当てられ、手の温かみでスキンシップ。魔法にかかったように安心感がでてるのです。

それともうひとつ、笑い方がとても特徴的で、静かな診察室も、突如として笑いの虜になってしまいます。お腹の底でひっかかったような、何とも真似しがたい笑いで、ついひかれてもらい笑いをしてしまいます。いちどおいでませ。



診察中のタバコ本数2箱以上、コーヒー5杯以上、トイレ回数？一日診察でお疲れの為か、タバコで一息、その時の顔は、何にもたとえようのないシガレットタイムのようです。しかしその間にも本日のスケジュールを頭に浮かべ、考えていらっしゃるようで、ふいに思い出されゴソゴソガサガサされます。ついつられゴソゴソガサ。

患者さんには、「タバコの量を減しなさい。」「食事療法しなさい。」と指導されていますが、院長先生も身体を労ってほしいと思います。毎日のことですからネ。

多忙の院長先生も、週に一度は愛する奥様のもとへ帰られるようで、日頃何うことのできない、落ちつきのない様子です。やっぱり何といっても、奥様の所が一番心落ちつく憩いの場所のようです。いつも口癖

に「うちのかあちゃん怖い。」と童心のような声で言われます。

かあちゃんの影の力あって、院長先生も頑張っておられるのでしょう。

これからも、健康で頑張っていたきたいと思います。

“省ちゃんガンバレ”

思い出の新婚旅行

光武達夫



私達の新婚旅行記を読んでもあまりおもしろくないと思うのですが、一応順番でするのでザッと読み流して頂ければと思い、思い出すままに綴ってみることとします。

我々は三月に結婚式を挙げ、南海の「グアム島」へ旅行しました。どれくらいの行程だったかいまでは、はっきり覚えてないが、山口を立って帰りつくまで約一週間だった。その当時私は病院で人工腎の方も受けもっていた関係でそう長期に休むわけにはいかず、ハワイとかヨーロッパにいくだけの金もなかった。

グアムはしかし日本からみれば立派な外国だったし、パスポートを得るのに二回程県庁に足を運んだりせねばならず、一応国外旅行をしたいと思っていた私の希望を満

足させてくれたからに、ほかならない。

朝早くから羽田の飛行場へ並びジャンボ・ジェットで飛び立った。

機内は見わたすかぎり着飾った新婚旅行のペアばかりであった。三月の東京は寒かったがグアムの飛行場におり立った途端ムツとくる暑さに、あ・南国に来たなという実感がした。宿舎はコンチネンタルといって広大な敷地に管理棟があり、その周囲に客用の一戸建のヴィレッチが幾重にも取り巻いていた。庭にはハイビスカスはもちろん南国の色鮮やかな草花が咲き乱れ、目の覚めるような芝生とともに、それは見事な美しさだった。しかし寝泊りするヴィレッチにはベッドとソファ、風呂とテーブルしかなくテレビや音楽を奏でる物等はなく、冷えたビールの入ったクーラもなく、時折ヤシの実が「ポタツ」「ポタツ」と落ちる音を聞きながら寝込むしかなかった。それもその音がヤシの実が落ちる音とは翌日わかったのではあるが。



グアム島での観光めぐりは旧日本軍の残した防空壕跡とか太平洋戦争に関係したところも多かったが、首都アガナの街並は今考えてみれば、光市の中心街にも似ており、スペイン時代の遺跡であるソレッタ砦、ココス島巡り、さらにサイパンの海は実に見ごたえのあるものだった。私はサイパンに

つについては太平洋戦争で日本軍がみじめな敗戦をしたところという事は知っていたが、グアム島もそれとほとんど変わらない戦地であったということをつかすにも忘れていた。帰りの飛行機の窓からみる暮れなずむ夕陽の空は筆舌につくしがたいものがあるが、こういう激戦地を新婚旅行に選ぶのはどんなもんだらうかと考えたりもした。しかしグアムの海の色はエメラルドグリーンであくまでも美しく日本のそれとは、たしかに違ってすみきっており一度みたら忘れられない色をしていた。その後ハネムーンベビーで生まれた長男はこしし中学生となり、背の高さも家内をおいこし声変わりをして、男くさきさえ感ぜられるようになった。時の過ぎるのが早いことも痛感させる昨今である。

医師会ナイター観戦記

楽しきかな
ベースボール

近藤 龍一



今年もナイターの季節がやってきた。ワクワクしながら広島へ到着。昨年、初めて広島球場を訪れたが狭くて汚いのには驚いた。

今年は大改装したのでかなりきれいになっている。でも古い壁の上に塗料をぬりたくっているのが年増の厚化粧みたい。前回は場所がよくて選手の表情やプレーがよく見えたが、狭い・暑い・尻が痛い三重苦に悩まされた。今回は新築の二階席の最上段だったので、広く・涼しく・尻も痛くなかったが、代りに選手が豆粒みたいでさっ

ぱり判らない。何故かクロマティ選手だけが、よく判った。世の中にすべて最上ということはないもので、余り贅沢ばかりいうと藤原先生に一喝されそうである。正面に暮れなずむ広島城を望みながら、涼風に吹かれてビールを傾けるのは何といっても夏の醍醐味である。

私は大洋ファンで大の巨人嫌いなので、一生懸命広島を応援した。大洋みたいな弱いチームをなぜ応援するかと問われても困るが、むかし三原率いるホエールズが、唯一回優勝したときたまたま後楽園で観えてファンになってしまった。全く地味なチームだが、いぶし銀のような選手も多く玄人好みの球団だと自らを慰めている。目の前に（目の下に？）山本浩二選手がいて、マスコミからは爺さん扱いられているが、どうしてどうして仲々にスマートで若々しい。（でも、モタモタしてとれそうな球を二つばかり捕り損った。）鍛え抜かれたスポーツマンの体はさすがに美しく、しかも夜目、遠目、笠（帽子）の内であるから女性にモテるのも道理と合点がいった。

試合は原の押し出し決勝点で巨人の勝利といった締らない結果に終わった。今後の広島苦闘がしのばれて残念である。9時半頃広島を出発。宇和島や大分から来たバスもあったが、彼等は何時頃帰り着くのであろうか。

お世話をいただいた藤原先生をはじめ、諸先生方、有難うございました。

ニューフェイス



氏名 芦田一郎

市立病院 整形外科

生年月日 昭和31年3月1日

現住所 光市虹ヶ浜2丁目15-14

TEL 0833-72-4371

出身校 山口大学医学部(58年卒)

趣味 ゴルフ、囲碁、パチンコ

家族 妻1人

7月より光市立病院整形外科に田中先生の後任できました芦田といいます。昭和60年6月までは徳山中央病院で勤務しており光にも何度か来て、環境の良い所だと思っていました。その後1年間島根県の国立浜田病院に1年間勤務し山陰は何となく暗く交通の便も悪く、今度は山陽側で勤務できればと思っていました。

運よく希望どおり7月より光市立病院勤務となり妻と二人で喜んでおります。

現在市立病院整形外科は2人で年光先生の御指導のもとに勉強させていただいております。最近やっと病院にも慣れてきて、これから一層頑張っていきたいと思っています。まだ経験も浅く未熟であり色々御迷惑をかけることもあるかと思いますが、今後ともよろしく願います。

あ と が き

いろいろな台風の迷走と共に、秋がやって来たようです。あのうるさかった蝉達の声もなくなり、ギラギラの太陽もすっかりやさしくなってきました。

夏の疲れが出ない様皆さん体調を整え

て頑張って下さい。

今月から「うちかたの先生」は市立病院編となります、市立病院の職員の方々の御協力に心から感謝しつつ……。

梅田



発行所 光市医師会
TEL 0833 72-2234

発行者 竹中昭二
編集者 会報編集委員会

印刷所 光市御崎町
中村印刷株式会社